

# 学徒研修・見習教務養成所

講義「ごんじょうぶん言上文について」

担当・まつもとりょうこう松本良光（弘通局主事）

# 言上【ごんじょう】

めうえ  
目上の人に申し上げること

申し述べること

ごんじょうぶん  
言上文

ごほうぜん  
御宝前に申し上げる  
もんごん  
文言

ごんじょうぶん  
言上文

ごほうぜん  
御宝前に申し上げる  
もんごん  
文言

おかんきん  
→御看経の  
どうし  
導師が  
ごんじょう  
言上する

# どうし 導師

参詣者を良い御看経へ導く人

→リーダー、良いお手本

【よ良い御お看かん経きん】

一、御ご本ほん尊ぞんを見みつめ

一、ご弘ぐ通づうを第だい一いちに祈いのり

一、一い遍っぺんでも多おく

一、姿し勢せいを正ただし

一、大おきな声こえでハツキリと

上行じょうぎょう所しよ伝でんの御お題だい目もくを

お唱となえします

ごんじょう もくてき  
言上の目的

参詣者を良い御看経へ導く事  
よ おかんきん みちび

→言上は手段・方法の一つ

りゅういてん  
《留意点》

おかんきん  
①御看経の速さ、音量・音質

→心打たれるような御看経を

②参詣者の顔ぶれ

→初心者<sup>しんせつていねい</sup>を親切丁寧に育てよう



どうし      ごほうこう  
導師の御奉公の

はじ  
始まりはいつ？

《御指南》  
ごしなん

本尊ほんぞんに向むかう時ときの

心こころ大切たいせつなり。この

時ときに利益りやくを蒙こうむるか

蒙こうむらぬも定さだまる事こと

なり。人ひとの知しらぬ

大切たいせつはこれなり。

御本尊ごほんぞんの前にまえ座すわる

時ときの心持こころもちが大切たいせつ。

その時ときに御利益ごりやくの

いたただける、いた

だけないが決ままる。

これは多おほくの人ひとが

知しらない大切たいせつな事こと。

どうし せき つ ととき  
導師の席に着いた時

すで はじ  
には既に始まっている

---



『アルマゲドン』

ごんじょうぶん

言上文の

こうせいようそ

構成要素



回

向

えこう



祈

願

きがん



勸

請

かんじょう



かんじょう  
勸請

さんそしやうにん  
三祖聖人

れきだいこうゆうしやうにん  
歴代講有上人

れきだいいじゆうしやく  
歴代住職などの

お出<sup>で</sup>ましを請<sup>こ</sup>う

\* 仏<sup>ぶつ</sup>、菩薩<sup>ぼさつ</sup>、  
諸<sup>しよ</sup>天<sup>てん</sup>

ぜんじん  
善神は？



個人こじん

(家庭)かてい

寺院じいん

(地域)ちいせう

宗門しゅうもん

(世界)せかい

諸祈願しよきがん

弘通誓願ぐづうせいがん

◎ 祈願きがん

えこう  
◎◎  
回向

ほうおん  
【報恩として】

そんそ  
三祖・先師など

とむら  
【弔いとして】

せんぞ  
先祖・物故者

さいがい  
災害等の犠牲者

どうぶつ  
動物など

ほんもんぶつりゅうみょうこういちざ  
本門佛立妙講一座

① 懺悔さんげ

無始已来

② 勸請かんじょう

如来滅後く南無当門

③ 回向えこう（祈願きがん）

願わくは受持口唱

④ 随喜ずいき

ああ有難や

⑤ 発願ほつがん

願わくは生々世々

① 懺悔 さんげ

② 勸請 かんじょう

③ 回向 えこう

④ 随喜 ずいき

⑤ 発願 ほつがん



( 祈願 きがん )



① 懺悔 (さんげ)

② 勸請 (かんじょう)

③ 回向 (えこう)

④ 随喜 (ずいき)

⑤ 発願 (ほつがん)

( 祈願 (きがん) )



《御妙判》  
ごみょうはん

青あおき事ことは藍あいより出いでたれど

も重かさぬれば藍あいよりも色いろま

さる。同おなじ法華經ほけきょうにては

をいんぎしはすれども志かきを重かさぬれ

ば他たにん人にんよりも色いろまさり、

利りしやう生しやうもああるるべべきき也なり也なり。

色<sup>いろ</sup>が濃<sup>こ</sup>くなる



染<sup>そ</sup>めるたびに



何度なんども繰くり返かえして

御看経おかんきん、御法門聴聞ごほうもんちようもん

御奉公ごほうこうをさせていた

だくうちしんじんに、信心しんじんが

深ふかく濃こくなっていき

それだけの御利益ごりやくが

いたただけるように。

そのうちの1回の<sup>どうし</sup>導師を

<sup>つと</sup>勤めるという<sup>じかく</sup>自覚を<sup>も</sup>持つ



# ①言上文（言上の仕方）

所属寺院の御導師、御講師の言上

を元に、ご教導きょうどうを仰あおいでください。

\* 地域や門末もんまつによって違いがある

## ②練習（経験を積む）

最初から上手な人はいません。

初心者だからこそ練習して、<sup>みずか</sup>自ら

導師の御奉公を<sup>しがん</sup>志願しましょう。

### ③信心（志・慈悲）

「この御看経を良いものにさせて

いただきます！」という真っ直ぐな

信心こそが最も大切な<sup>げんどうりょく</sup>原動力です

① まずは**形**から入ろう

② 正しい**努力**を重ねる

③ 本物目指して**継続**を

# 【教務・学徒の有難さ】

他者の人生に関わりながら生きて

いく中で**多種多様な体験を共有し**

自然と自分自身が<sup>みが</sup>磨かれていく



# 《質疑応答》

# 学徒研修・見習教務養成所

講義「ごんじょうぶん言上文について」

担当・まつもとりょうこう松本良光（弘通局主事）

ご清聴ありがとうございました